

15団体参加して

土浦カレー頂点決める

普及の「フエス」に3万人

「土浦カレー物語」の普及や拡大を図る、

第4回「土浦カレーフェスティバル」が23日、川口運動公園（土浦市川口2丁目）で開かれ、約3万人が来場した。

特別企画として、土浦カレーの頂点を決める第1回「C-1グランプリ」が催され、カレー料理研究会で認定

された15事業所が参加。

中川清市長やカレー研究会アドバイザーの森幸男さんから各界の専門家10人と、一般公募で選ばれた8歳〜62歳の幅広い年齢層の10人が審査員となり、地元産品が取り入れられたカレーを試食した。見た目、香り、味など基準に審査した結

果、農産物直売所サンフレッシュ「はすの里」が手掛けた「里の特製れんこんカレー」がグランプリを獲得。

初代チャンピオンに輝いた調理師の菅澤達也さん（34）は「自分の実力だけでは取れなかった。周りの人が協力してくれたおかげ。カレーだけにこだわっていたらこの味は出な

かった」と喜びを語った。

森さんは「好き嫌いがはっきり分かれるココナッツミルクを、誰でも食べやすいようにアレンジしている。難しい食品の使い方に相当研究された」と評価し、土浦市のカレーのレベルの高さをアピールした。特別賞には料理の創



カレーカップを手に喜びを語る菅澤さん④
＝土浦市川口2丁目の川口運動公園

造性が認められ、レストラン中台、喜作、創作和菓子すぎやまが選ばれる。同時開催された「食の地域名産大集合」で

は、県内外の食のまちおこしを進める市町村や事業所、団体21店舗が出店。各地の名産が並び、にぎわっていた。（藤井麻紀子）